■肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

一人ひとりが輝く! お話し宅急便の学年活動

東京都立光明学園 達 直美

はじめに

東京都立光明学園は、2017年、肢体 不自由教育部門と病弱教育部門の2部 門を併置する特別支援学校として開校 しました。

肢体不自由教育部門と病弱教育部門が有する専門性を活用し、障害による学習上または生活上の困難に対する主体的な改善・克服や健康の回復・保持増進を図るとともに、一人ひとりの能力・特性などを最大限に伸ばすことにより、学園生の自立と社会参加を切れ目なく支援できる学校を目指しています。

目指す学校像と教育目標

ここでは、マルチメディアDAISY図書の活用に関わる部分を抜粋して紹介します。

(1)目指す学校像

。日々の学校生活や部門内・部門間の 交流、地域との結びつきや関わりを 通じて連帯感を高め、将来の自立と 社会参加に必要不可欠な社会性を育 むことのできる学校 ・ I C T (情報通信技術)機器を活用 し、意思表示の手段や外部との関わ りをもつことで、生活や学習に対す る意欲および自己表現力を育むこと のできる学校

(2)学校教育目標

- ○自らの夢の実現に向けて、確かな学力を身につける。
- 。健康で心豊かに、安全に生活する力 を身につける。
- ○互いの人格を尊重し、豊かな人間関 係を築く力を身につける。
- 。自己の役割を担い、協力・協働して 主体的に自立・社会参加する力を身 につける。

上記に掲げた目指す学校像や教育目標を具現化するために、学校経営計画の中で、以下のように取り上げられています。

〈面部門〉

タブレット端末・遠隔ロボットなど ICT機器を活用した教育充実 〈肢体不自由教育部門〉

企業との共同開発研究による音声メ

ディア貸出システム「聴く読書支援」 などの整備と活用

〈両部門〉

読書活動などに親しむための環境整備(貸出システム導入による活用促進)

(3)校訓の可能性追求

どんなに重い障害があっても、一人 ひとりの可能性を引き出す機会になり、 日々の生活がより豊かになり、卒業後 の生涯学習にもつながると考えます。

肢体不自由部門 中学部のお話し宅急便の実践

肢体不自由教育部門の子どもたちは 障害特性から、生活体験・社会体験が 少ない状況にあります。その部分を補 うのが、読書活動であると考えます。

(1)研究テーマ

「肢体不自由の子どもたちの可能性を伸ばすマルチメディアDAISYの試みV |

昨年に引き続き、お話し宅急便の活動を継続します。2学年の中学部全教育課程の子どもが役割を担いながらマルチメディアDAISY図書を活用し、全校の子どもたちに読み聞かせ活動を行います。

(2)研究目的

①マルチメディアDAISY図書を活用し 指導を行うことで、 ②肢体不自由の子どもの可能性を最大限に引き出す。

【目的】

- ①本への興味・関心をもち、新たな知識を身につけ、学習への意欲を高める。
- ②言葉の習得・読み書きの力を身につける。
- ③人と関わる機会を通して、コミュニ ケーション能力を高める。

子どもたちの学習意欲の向上・自己 肯定感の向上・生涯学習へのつながり などに期待しています。

【期待する子どもの姿】

- 本を読むことで世界を拡げ、いろいろな事柄への興味・関心や学習への意欲を高める。
- ○読書やお話し宅急便での役割を通して、自分でもできるという自己肯定感を育み、自信をつける。

(3)活用の概要

昨年度は、中学部の知的代替の教育 課程の学習グループの子どもが取り組 みました。今年度は、2学年に在籍す る自立活動を主とする課程・知的代替 の教育課程・準ずる課程のすべての子 どもたちが参加し取り組みました。ま た、訪問学級に在籍する子どもがス クーリングで登校する機会に全員でお 話し宅急便を行うことで、交流を深められるようにしました。

〈対象:中学部2年の学年集団〉

教育課程:自立活動を主とする課程の 10名・自立支援の教育課程5名(うち 訪問教育1名)・知的代替の教育課程 4名・準ずる教育課程1名

実態:2名(視覚支援を要する)・2名 (表出言語がある)・8名(表出において 支援を要する)

〈活用の場面〉

本の選択…特別活動(ホームルーム) 本の紹介…給食終了後の時間 13時~ 13時30分

*訪問学級のスクーリングの日含む。 使用機器…大型テレビ、タブレット端 末、マイク、個に応じた代替機など

〈活用に際しての配慮〉

- 主体的な取り組み・・・紹介する作品や 役割を子ども自身が選ぶ。
 - * どの子どもも役割が実践できるように、外部スイッチやカメラ、 L C T 機器などを活用する。
- ・ 視聴する子どもの実態や活用する場面や時間に応じて、作品を選べるようにする。

〈お話し宅急便の概要〉

2 学年の子どもが、マルチメディア

DAISY図書の中から他の子どもたちに紹介するお話を選び、給食後に、図書コーナーでタブレット端末を大型テレビにつなぎ実施する。

【活動の流れ】



みんな集まった!



- ①学年ホームルームの時間に全員で、 マルチメディアDAISY図書を大型テ レビで視聴し、気に入った内容の話 を2つ選ぶ。
- ②お話し宅急便の司会者と、本の紹介をする係を決める。
- ③校内にお話宅急便をする日時をアナ

ウンスする。(ポスターおよび校内 の掲示板)



私が呼び込みします!

- ④はじまりの時間のアナウンスをする「♪お話し宅急便はじまり・はじまり♪」
- ⑤司会者がはじまりの挨拶と終わりの 挨拶をする。
- ⑥作品を視聴する際には楽しいフレー ズを連呼するなど、盛り上げる工夫 をする。
- ⑦司会者が作品の感想を聞く。
- ⑧司会者が参加してくれた人への感謝をしながら終わりの挨拶をする。

【活動に参加できるために行う合理的配慮】 ◦訪問学級に学ぶ R さんは、ストレッ チャーを使用しています。



訪問学級の Rさん

みんなの様子がわかるようにカメラを設置し、タブレット端末にみんなの様子を映し出して状況が把握できる工夫をしています。



カメラとiPadを活用

また、司会をする際には、タブレット端末のキーノートのアプリを活用して文字と音声を外部スイッチを押すことで担う工夫をして取り組みます。



・視覚支援を要する I さんは、音声を 吹き込んだスイッチを押して司会を 務めたり、垂れ幕を引っ張ってメッ セージを伝えたりして、役割を担い ました。



僕が司会です。外部スイッチで。



よいお年を、また来年。

【本の選択】

- 。楽しい言葉の連呼がありリズム感の あるもの
- ◦お話に集中できる短い内容のもの
- 紙芝居風で声優さんがナレーターのもの

- ○季節や生活場面に関連したもの
- 写真やイラストがあり内容を把握し やすいもの
- なぞなぞやクイズなどで視聴する他の生徒と関わり合いができるもの

【お話し宅急便を実践する2学年の子 どもの変容】

- ○本の選択や役割の選択で、自分の意思を表現することができた。
- 。定期的に活動することで、お話し宅 急便の活動への期待感が生まれ、活 動の流れを理解しつつある。また、 活動のあるときには、時間を意識し て取り組む姿も見られた。
- 。役割を通して達成感・成就感が得られ、他学部からもたくさんの人が見に来てくれることに喜びを感じることができた。

【お話し宅急便を視聴する子どもの変容】

- 。定期的な活動を行うことで、他学部 からの参加があり、活動への期待感 をもつ子どもが増えた。
- 。給食後の時間を、有効に活用できる ようになった。
- ○中学部の全員が、一緒に楽しむ時間を共有できた。
- 。司会者が紹介するお話を集中して見ることができ、楽しい場面では表情や言語で感情を表すことができた。

生徒全員が役割を担う意義

昨年度のお話し宅急便は、知的代替の教育課程の子どものみで行ったことに対し、今年度は全教育課程の子どもたちで取り組んだことに意義があると考えています。

特に訪問学級で学ぶ子どものスクーリングの日に取り組むことで、その子どもも司会などの役割を担うことができ、同学年の仲間と交流を深めるだけでなく、他学年・他学部の子どもたちとの関わりにも広がりました。

まとめ

マルチメディアDAISY図書の活用は、 障害の程度や状況に関わらず取り組む ことができます。子どもたちができる、 できないと考えるのではなく、どうす ればできるかという発想の転換が大切 です。

また、文字言語の獲得・言語や文章の表現力の向上などだけではなく、人と関わる力も培うことができることに注目したいところです。肢体不自由教育部門の子どもたちの実態は年々重度化していますが、マルチメディアDAISY図書から本に出会う楽しさを知り、興味・関心の幅が広がる場面もあります。集団で視聴する中で、みんなと一緒に声を出して笑ったり、表情の変化が見

られたり、その子なりの表現で視聴しているお話への感想を伝えています。

私たち教員は、子どもたちが学ぶことの楽しさや、興味・関心のある活動に見通しをもって取り組めるように意図的に繰り返し設定していくことが必要です。これにより子どもたちが学ぶことの楽しさを知りました。本に触れて学んだことを次の学習場面で活かすようになることが今後の課題です。

まだまだ校内では、マルチメディア DAISY図書のことは知っていても、活 用できている教員は多くないのが現状 です。

そのためには、どこでもだれでも取り組めるように機器の環境整備を行い、タブレット端末やパソコンにマルチメディアDAISY図書を入れていくことも一案であると考えます。そのことで、校内すべての教育活動で学ぶ子どもたちが活用でき、さまざまな教科での学びにも活かすことができます。

どの子どもたちも、その障害の状態にかかわらず、みんな学びたいという気持ちをもっています。今後もマルチメディアDAISY図書での読書を推進し、校訓である「可能性の追求」を、子どもたちの気持ちにより添いながら創意工夫して、授業や活動を組み立てていきたいと思います。